

9-1			
主題	事故予防の観点からセンサーロボットカメラシステム導入の効果を解析		
法人名・事業所名	社福) 東京聖新会 特別養護老人ホームフローラ田無		
発表者(職種)	尾形剛弥(相談員)		
共同研究(実践)者	増山茂(医師)、尾林和子(施設長)、近藤洋正(統括主任)、他		
電 話	042-468-2311	FAX	042-468-5288
事業所紹介	1999年、特養と老健の合築型施設として西東京市に創設。法人一体による諸活動を通して地域に住まう皆様から信頼される法人を目指しています。		

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

転倒・転落リスクの高い利用者の居室ベッドにナースコール連動型の離床センサーを設置しているが、介護職員・被介護者双方にとって必ずしも効果的に事故予防につながっていない。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

手元で被介護者の安否確認が行える、プライバシーに配慮したセンサーロボットカメラシステムがケアにどのような影響を与えるか事故予防の観点から検証する。

《3. 具体的な取り組みの内容》

①モバイル端末で被介護者の動きを見守ることに、有効性があるのか夜勤職員の動きを観察する。②センサーロボットカメラ設置前後の介護事故件数を比較する。③夜勤職員の疲労度調査を実施する。

《4. 取り組みの結果》

①巡視以外で被介護者の就寝状況が把握できた。②センサーロボットカメラ設置の28年度の介護事故件数は87件。過去5年で最も少ない年度となった。特に外傷事故が減少した。③夜勤職の自覚的負担・疲労度は有意に低下した。

《5. 考察、まとめ》

映像で見守りができるモバイル端末は、場面を選ばずにリスクと業務の優先順位をつける判断ツールになっていた。記録映像で原因不明の事故の特定と対策も進んだ。職員の心理的負担にも正の影響が見え、相乗効果で介護事故減少に繋がった。介護事故予防の観点からセンサーロボットカメラ設置は有効である。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

この研究実行に際しては東京聖新会倫理委員会での承認をうけた。

《7. 参考文献》

日本産業衛生学会産業疲労研究会「自覚症調べ」

《8. 提案と発信》

様々なタイプのロボットが製品化され日々進化し、介護現場での活用にも期待が高まっている。介護現場とロボットメーカー側の情報格差を埋めて、介護現場のニーズとロボットを効果的にマッチングするコーディネート機能が今後求められる。